

## 2022年(令和4年)4月オホーツク管内倒産集計

2022年5月6日

株式会社 東亜リサーチ

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

### 4か月連続で発生ゼロ 1~4月記録的低水準で推移

#### 4月の発生ゼロは11年ぶり

■前月比	件数	同数(2022年3月)	0件)
	負債総額	同数( " )	0円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	3件減少(2021年4月)	3件)
	負債総額	1億7,500万円減少( " )	1億7,500万円)

#### 2022年4月の発生状況

2022年4月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)の発生はゼロだった。3月に発生がなかったことから前月比で件数、負債総額ともに同数。前年同期比では件数が3件、負債総額で1億7,500万円のそれぞれ減少となった。

過去5年間の4月の発生状況を見てみると17年・18年・19年各1件、20年2件、21年3件の推移で、平均発生件数は1.6件、同負債総額で1億3,278万円であるが、今年は発生ゼロに止まった。4月に発生がないのは2012年4月以来11年ぶり。

これで4か月連続発生ゼロとなり、1966年に当社が集計を取り始めて以来初めてとなった1~3月連続発生ゼロを更新しており、過去に前例がない極めて抑制されて推移している。

## 2022年1～4月の発生累計

過去5年間の1～4月の発生推移は【右・表】の通りで、平均発生件数は6.4件、同負債総額は5億4,438万円。1～4月は閑散期で比較的発生の多い期間だが、累積でゼロに止まり、過去5年では件数、負債総額ともに最低となっている。

年間9件と過去最低の発生件数だった2011年でも1～4月は3件発生しており、それを下回る記録的な低水準で推移している。

過去5年間で今年1～4月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2017年	11件	5億100万円
2018年	6件	5億8,600万円
2019年	3件	1億5,990万円
2020年	6件	11億3,800万円
2021年	6件	3億3,700万円
2022年	0件	0円

## 今後の見通しと問題点

今年は累計発生がゼロに止まるなど記録的な低水準で推移しており、コロナ禍に対応した資金繰り支援が倒産を抑え込んでいる大きな要因と見られる。

行動制限が解除されて迎えるゴールデンウィークは飲食、宿泊業などで回復が見込まれているが、今後のコロナ感染状況によっては先行き不透明。一次産業では生乳受入制限に加え、飼料等の高騰による業績圧迫が予想される酪農業。これに伴う牛舎建設の減少や資材高騰、人手不足などによる住宅建築の落ち込みが心配な建設業。新車の生産停滞で1～4月の新車登録は前年比84.7%と大幅減、中古車の供給不足で中古車登録も減少している車輛販売、燃料高騰が収益を圧迫する運送業など不安材料を抱える業種は多く、管内景気を支える明るい材料が乏しい。

コロナ禍に加え、急速に進んだ円安やウクライナ情勢によるエネルギーや原材料価格の高騰、人手不足に伴う人件費増などが今後の懸念材料となっているが、管内企業は業績改善が遅れている企業も多く、膨らんだ債務の圧縮や事業再生が円滑に進むかどうか今後の倒産推移を左右すると見られる。

